

学 校 法 人 新 庄 学 園

新 庄 東 高 等 学 校

平成 2 9 年 度

第 1 学 年

教 科 目 学 習 計 画

～ 校 訓 ～

“自らの手で人生を開拓しよう”

それは努力によって

そして方法を考えて

すべて敬虔な態度で

○普通科 E コース

1. コース目標

難関大学の合格を目指し、大学受験に対応できる学力を養う。
探求活動を通して、幅広い知識を得て、教養を深める

2. 学習目標（第1学年）

高校生活に順応し、大学受験に必要な基礎学力を身につける。
全国統一模試の偏差値 65 を突破する。

3. 3年間の授業の流れ

【第1学年】

- ・国語、数学、英語の授業が毎日あります。授業を大切にし、基礎学力を身につけてください。
- ・授業→演習→復習のサイクルを確立してください。
国語、数学、英語の家庭学習は継続して行うこと。
放課後の時間を利用し、その日の復習を行うこと。
放課後は教科の先生を積極的に利用すること。
- ・年間4回の全国模擬試験を実施します。学力水準と伸長を客観的に判断し、弱点教科に役立てます。
- ・将来の進路の方向性を決定します。

【第2学年】

- ・国語、数学、英語を中心に、進路希望に合わせて社会、理科の選択授業があります。
- ・1年次の基礎学力の上に、応用力を養い、大学入試センター試験に対応できる学力を身につけます。1年次以上に、家庭学習の量と質が大切になります。
- ・年間4回の全国模擬試験を実施します。2学期以降は社会、理科も試験科目になります。また、志望校の決定の参考とします。
- ・大学研究を行い、志望校と受験科目を決定します。
- ・語学研修を行います。

【第3学年】

- ・進路希望に合わせた選択授業が多くなります。
- ・大学入試センター試験はもちろんですが、個別学力試験に対応できる力を身につけることを基本に、演習中心の授業を行います。
- ・毎月、全国模擬試験を受験し、実践力を身につけます。出願校の決定の参考とします。

科 目 名	コース	学 年	単位数
国語総合	E	1	6

○内容・授業の進め方

- ・1年次で徹底して基礎学力を養います。
- ・「話す」「書く」といったアウトプットの力を意識した授業にします。

○学習計画

月		月	
4	○古文 「児のそら寝」「絵仏師良秀」 ・動詞の活用	9	○現代文 「旅する本」 ・情景を読み取り、作者の心情理解
5	○古文 ・形容詞、形容動詞の活用 ○漢文 「狐借虎威」「蛇足」 ・漢文訓読 ○現代文 「新しい地図を描け」「羅生門」		○古文 「徒然草」 ・動詞、形容詞、形容動詞、助動詞の復習 ○漢文 「漁父辞」 ・少し長めの文章の読み取り
6	○現代文 「水の東西」「夢十夜」 ・記述での解答の仕方を学ぶ。 ○古文 「竹取物語」 ・助動詞の意味や用法について理解する。 ○漢文 ・漢詩の形式を学び、詩に込められた筆者の考えを読み取る。	10	○現代文 「城の崎にて」 ・登場人物の考え方を読み取る。 ○古文 ・説話、助動詞の識別について学ぶ。 ○漢文 「無用之鵠鳥」 ・少し長めの文章の読み取り
7.8	○現代文 「見る」 ・筆者の考えを読み取る ○古文 「伊勢物語」 ・物語中の和歌の意味を考える。	11 12 1 2 3	○年末からは2年生の模試の過去問を使用し、問題の形式を理解する。また、苦手な範囲の復習の時間を作る。
備考			

○評価

- ・定期試験
- ・小テストの結果
- ・授業への取り組み
- ・課題への取り組み

科目名	コース	学 年	単位数
世界史 A	E	1	2

○内容・授業の進め方

- ・現代社会の仕組みを理解する上で必要な歴史的背景や文化についての知識を身につける。
- ・重要な歴史的イベントや出来事を具体的に理解し、知識の定着を図り、論理的思考を養う。
→その手段として、合理的かつ論理的な発想力を養うためのディスカッションや教科書(資料)の読み取りを中心とした授業を行う。

○学習計画

月		月	
4	○人類の進化 ・文明の誕生 ○オリエント史	11	○世界の一体化 ○ヨーロッパ近代史
5	○東アジア史 ・中国史 殷～宋 ○南アジア史 ・インド史		・市民革命 ・産業革命
	○ヨーロッパ古代史 ・ギリシャ	12	・フランス革命
6	・ローマ	1	・帝国主義
	○イスラーム史	2	○近現代史
	・イスラーム教成立以前と後	3	・第一次世界大戦
7	○東アジア史 ・中国史 モンゴル帝国～清		・第二次世界大戦
8	○ヨーロッパ中世史		
9	・十字軍		
	・ルネサンス		
10	・大航海時代		
	・宗教改革		
備考 ・教科書、ノートを準備して授業に臨むこと。			

○評価

- ・授業態度、提出物、定期テスト、課題で評価
- ・得た知識を活用して自身で多様な「表現」ができているかを評価

科目名	コース	学年	単位数
現代社会	E	1	2

○ 内容・授業の進め方

- ・現代社会に関心を持ち、時代の流れを理解・把握した上で、自身の意見や考えを表現できるようになることを目標とする。
- ・グローバルな視野を持ち、主体的に国際社会を生きる人物像を目指す。
- ・センター問題や模試の出題方法を意識した演習を行う。
→その手段として、基礎知識の定着を重視し、ディスカッションを通して自身の考えを確立させていく授業を行う。

○学習計画

月		月	
4	第1編『現代に生きる私達の課題』 ・地球環境問題・エネルギー・資源問題 ・生命問題・宗教について	10	第3章 「民主社会と倫理」
5	・豊かさについて	11	・国家と国民との関係
6	第2編『現代社会の在り方と私たちの生き方』	12	第4章 「現代の民主政治」 (民主政治の基本原理)
7	第1章 「現代の社会生活と青年」 (現代社会の特質と私たちの生活)	1	・基本的人権と憲法
8	・少子高齢化社会	2	・日本の平和主義
9	・情報化社会の現状と問題点 (現代の経済生活と経済活動)	3	・国会、内閣、裁判所の役割
	・技術革新と産業構造の変化		第5章 「国際社会と日本の役割」 (国際社会の動向)
			・経済体制と冷戦 ・核兵器問題 ・貿易拡大、貿易摩擦
備考 ・教科書、ノートを準備して授業に臨むこと。			

○評価

- ・授業態度、提出物、定期テスト、課題で評価
- ・日常的な社会への関心度を重要視していく。
- ・定期テストの結果・小テストの結果

科目名	コース	学年	単位数
数学Ⅰ・Ⅱ	E	1	3・1

○内容・授業の進め方

- 第1章では、展開、因数分解など基本的な計算力を身につけ、能率よく計算ができるようにします。また、絶対値や平方根の扱い方を学び、活用する能力を身につけます。
- 第2章では、中学校で学んだ関数の性質を確認し、2次関数について理解を深めます。定義域・値域や最大・最小について理解を深め、応用問題への活用できるようにします。
- 第3章では、正弦・余弦・正接の意味を理解し活用できる力を養います。三角形の辺と角の間の基本的な関係として、正弦定理や余弦定理を理解し、活用します。
- 第4章では、身近なテーマを取り入れ、データの分析方法について学びます。
- 数学Ⅰを履修後に3学期は数学Ⅱを履修します。
- 大学入試を意識し、多くの応用問題を扱いますので、毎日の復習が非常に重要になります。数学が苦手と感じている人も、授業に積極的に参加して、理解を深めてください。

○学習計画

月	授業予定	月	定期試験・模試予定
4	第1章 数と式	4	スタディサポート
	第1節 式の計算		
5	第2節 実数	5	全統模試
6	第3節 1次不等式		単元テスト
7	第4節 集合と命題	7	1学期末試験（模試過去問）
	第2章 2次関数		進研模試
8	第1節 2次関数とグラフ	8	夏休み課題テスト（模試過去問）
9	第2節 2次関数の値の変化		
	第3節 2次方程式と2次不等式		
	第3章 図形と計量	10	2学期中間テスト（模試過去問）
10	第1節 三角比		
11	第2節 三角形への応用	11	進研模試
12	第4章 データの分析	12	2学期末試験（模試過去問）
1	《数学Ⅱ》	1	単元テスト
2	第1章 方程式・式と証明		年末年始課題テスト
3		3	進研模試
			学年末試験（模試過去問）
備考			

○評価

- ・定期試験・模試の成績をもとに評価します。試験は数学Aと一緒にを行います。

科目名	コース	学年	単位数
数学 A	E	1	2

○内容・授業の進め方

- 第1章では、場合の数をもれなく数え上げることを意識し、効率よい数え上げ方を身につけます。また、確率の意味を理解し、基本的な性質や定理について理解し、具体的な事象を数学的に考察します。
- 第2章では、三角形や円と直線など、それぞれの図形が持つ重要な性質を確認し、図形に対する直観力・洞察力を身につけます。
- 第3章では、整数が持つ重要な性質を確認し、今までとは違う視点から数学の見方ができるように応用力を身につけます。
- 大学入試を意識し、多くの応用問題を扱いますので、毎日の復習が非常に重要になります。数学が苦手と感じている人も、授業に積極的に参加して、理解を深めてください。

○学習計画

月	授業予定	月	定期試験・模試予定
4	第1章 場合の数と確率	4	スタディーサポート
5	第1節 場合の数	5	全統模試
6			
7	第2節 確率	7	1学期末試験（模試過去問）
8			進研模試
9		8	夏休み課題テスト（模試過去問）
	第2章 図形の性質		
10	第1節 平面図形	10	2学期中間テスト（模試過去問）
11	第2節 空間図形	11	進研模試
12		12	2学期末試験（模試過去問）
1	第3章 整数の性質	1	年末年始課題テスト
2	第1節 約数と倍数		進研模試
3	第2節 ユークリッドの互除法	3	学年末試験（模試過去問）
	第3節 整数の性質の活用		
備考			

○評価

- ・定期試験・模試の成績をもとに評価します。試験は数学 I と一緒に行います。

科目名	コース	学 年	単位数
物理基礎	E	1	2

○内容・授業の進め方

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

アクティブラーニング型の授業により、問題演習を多く取り入れ、大学入試で高得点を取れる学力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	運動の表し方 (速度・加速度・落体の運動)	10	音 (音の性質・発音体の振動と共振・共鳴)
5	運動の法則 (力とそのはたらき・力のつりあい 運動の法則・摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力)	11	物質と電気抵抗 (電気の性質・電流と電気抵抗・電気とエネルギー)
6	仕事と力学的エネルギー (仕事・運動エネルギー・位置エネルギー・力学的エネルギーの保存)	12	磁場と交流 (電流と磁場・交流と電磁波)
7	熱とエネルギー (熱と熱量・熱と物質の状態・熱と仕事 不可逆変化と熱機関)	1	エネルギーの利用 (エネルギーの移り変わり・エネルギー資源と発電)
8	波の性質	2	物理学が拓く世界 (摩擦をコントロールする・エネルギーを有効利用する・見えないものを見る)
9	(波と触媒の運動・波の伝わり方)	3	本文の補足(発展)
備考			

○評価

1. 授業への参加姿勢(発言、質問、教え合い)
2. 課題の提出状況(問題集、テスト再提出)
3. 課題テスト、定期テスト結果

科目名	コース	学 年	単位数
化学基礎	E	1	2

○内容・授業の進め方

物質を探究する方法の基礎を身につけ、化学と人間生活とのかかわりについて関心をもつ。

「物質の構成」では原子の構造及び電子配置と周期律の関係を学ぶ。また、化学結合と物質の性質との関係を学び、物質の成り立ち等について考えることができる力を養う。

「物質の変化」では化学反応の量的関係、化学反応に関する基本的概念や法則を学ぶ。

アクティブラーニングによる学習により大学入試で得点をとれる学力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	9	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応 1 原子量・分子量・式量
5	第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表 第3章 粒子の結合	10	2 物質質量 3 化学反応式と物質質量 第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基
6	1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 分子の極性と分子間にはたらく力	11	2 水の電離と水溶液の pH 3 中和反応
7	4 共有結合の物質 5 金属結合と金属	12	4 塩 第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元
8		1	2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応
		2	4 酸化還元反応の利用
		3	
備考			

○評価

1. 意欲態度・・・話の聴き方，発言，課題への取り組み方，ノートのとめ方
2. 授業内容の定着・・・定期テスト、小テスト
3. 思考力判断力・・・授業内容を理解し、その知識を用いて課題に取り組むことができる。

科目名	コース	学年	単位数
生物基礎	E	1	2

○内容・授業の進め方

身の回りの生物や生物現象の本質に関わるような基本的な事項を深く学んでいきます。観察や実験等の探求活動を通して科学を経験的に学び、さらに生物の個々の事象を関連させ、総合的にとらえる科学的な思考力が身につくように学びます。Input および Output を意識したアクティブラーニングによる学習を通して、大学入試センター試験において8割以上の得点が確実にできるよう問題演習にも取り組みます。

○学習計画

月		月	
4	生物の特徴	1	生物の多様性と分布
5	・生物の多様性と共通性		・多様な植生
6	・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸	2	・植生の移り変わり ・気候とバイオーム
7	遺伝子とそのはたらき		生態系とその保全
8	・遺伝情報とDNA	3	・生態系
9	・DNAの構造と遺伝情報		・物質循環とエネルギーの流れ
10	・遺伝情報とタンパク質の合成 ・遺伝情報の分配と細胞の分化		・生態系のバランスと保全
11	生物の体内環境		
	・体液としての体内環境		
12	・腎臓と肝臓による調節		
	・自律神経とホルモンによる調節		
	・免疫		
備考			

○評価

- 意欲や態度・・・話を聞く態度がきちんとしている。
ポイントを的確にまとめている。
課題に取り組み、期日まで提出している。
- 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
- 思考力判断力・・・授業中の発言内容が科学的である。
課題を論理的に解くことができる。

科目名	コース	学年	単位数
体育	E	1	2

○内容・授業の進め方

1学期は陸上、スポーツテスト、2学期は球技、3学期はスキー、器械体操を中心に行う。どの種目においても、生徒同士が協力し個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解したうえで練習し、簡単なゲームまで行う。

○学習計画

月		月	
4	・オリエンテーション ・整列	8	・バレーボール
		9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
	・柔軟、補強運動		
5	・スポーツテスト	10	・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グランドゴルフ
	・陸上競技 短距離走 砲丸投げ	11	・バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） ゲーム
6	走り幅跳び 走り高跳び （基礎練習、記録測定）	12	
		1	・器械運動
7	・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グランドゴルフ	2	・スキー（年3回実施）
		3	スキー授業の無い日は引き続き器械運動を継続する。
備考			
体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科目名	コース	学年	単位数
保健	E	1	1

○内容・授業の進め方

健康の考え方の変化について学び、生活習慣病や感染症、さらに薬物乱用・心の問題、交通安全などに関わる健康的な生活習慣を身につけたり、健康的な自然・社会環境づくりに参加したりする知識と能力を高められるよう学習します。

○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 健康の要因や条件について考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求と適応機制 心と脳の働きについて理解し、説明できるようになる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり 正しい行動選択を実現させ健康づくりを支える環境について理解する。	11	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の相関とストレス、ストレスへの対処 ストレスと対処法について考える。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とその予防 生活習慣病を防ぐ方法についてさまざまな側面から考える。	12	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康と自己実現 自己実現の道筋と達成について理解し説明することができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、運動、休養と健康 健康に生きるための基礎を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり 交通事故の現状を把握し、危険運転行為について理解を深める。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 健康影響と社会問題について理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義とその基本 ・心配蘇生法 ・日常的な応急手当 心配蘇生法、応急手当について理解し説明することができる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症、エイズとその予防 感染症、エイズの問題について理解し、個人や社会で予防できる対策を考える。	3	
備考			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科目名	コース	学年	単位数
音楽 I	E	1	2

○内容・授業の進め方

- ・幅広く歌うこと・楽器に親しむこと・演奏すること・アンサンブルへの取り組みなど、生徒同士の交流を深めながら音楽に広く親しむという「活動」を中心に授業を進める。
- ・読譜や記譜の力を養う為、音楽の基礎学習をする。音楽を言語で伝え、鑑賞をする。
- ・発表する力を磨き、表現の工夫や鑑賞をする。

達成目標：表現活動に積極的に取り組む。 生徒同士協力し合い学習する。

楽しみながら表現の工夫をしあう。

○学習計画

月		月	
4	オリエンテーション 校歌応援歌をしっかりと歌える。 歌唱に親しむ	9	楽器で演奏しようその1
5	声の多様性 (P12～)	10	コードネームの仕組み
6	校歌応援歌歌唱テスト	11	言葉と音楽 教材：この道 ふる里 さとうきび畑
7	音楽の要素と組み立て	12	楽器で演奏しようその2 楽器：ハンドベル
	リズムアンサンブルへの取り組み	1	音楽の流れ
	期末試験	2	ハンドベル演奏発表
		3	期末試験
備考			

○評価

定期試験で学習確認テストをし、50%に評価します。また、実技演奏・発表の態度・意欲も含み50%評価します。更に、日常の学習に積極的に参加しているか、提出物を期限内に提出しているかを平常点に評価します。

発表・演奏内容：一学期：歌唱テスト（校歌・応援歌） ボディーPERCUSSION 演奏

二学期：コード演奏・

三学期：アンサンブル発表 ・合唱への取り組み

定期テスト (50%) 1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断 3) 知識・理解

演奏・発表 (50%) 1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断 3) 技能・表現

科目名	コース	学年	単位数
美術 I	E	1	2

○内容・授業の進め方

課題に対して作品を制作していきます。制作のみで終わらないようにお互いの作品を鑑賞しあってまとめや反省を行い、定期テストや小テストで課題の確認を行います。また作家の制作活動や作品を鑑賞して様々な表現方法や価値観について学びます。美術史と現代の美術様式について学びます。

○学習計画

月		月	
4	オリエンテーション 絵画 観賞と表現 記憶スケッチ	10	絵画 観賞と表現 自己を表現する
5	有名作品の模写 絵画 表現 鉛筆デッサンによるイメージの広がり	11	彫刻 鑑賞と表現 現代彫刻と新しい素材
6	デザイン 観賞と表現 カラーリングの基礎 画像処理の基礎	12	絵画 表現 版画 発想から印刷まで
7	彫刻 観賞と表現 石彫刻による日本の美	1	
8	マルチメディア表現 観賞と表現	2	
9	映像にみる現代性	3	各メディアのまとめ
備考 時代や流行を無視することなく積極的に取り入れるために制作テーマは年度当初にすべて決定していない。また各単元の教材変更もありうる。			

○評価

評価基準全体（課題制作・定期テスト）

- 1) 関心・意欲・態度 (25%)
- 2) 思考・判断 (25%)
- 3) 技能・表現 (25%)
- 4) 知識・理解 (25%)

評価基準内訳（上記項目1～4）の

定期テスト (40%) 1) 10% 2) 15% 3) 25%

課題制作 (60%) 1) 15% 2) 10% 3) 25%

科目名	コース	学年	単位数
コミュニケーション 英語 I	E	1	3

○内容・授業の進め方

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とした授業を展開していく。また、話すこととともに、聞く力も養い、最終的には模試やセンター試験においてのリスニング分野の得点向上に繋げることができるようにしたい。

○学習計画

月		月	
4	Unit 1 What is a good job?	9	Unit5 How do sports make you feel?
5	Unit2 Why do people immigrate to other countries?	10	Unit6 Is it ever OK to lie?
6	Unit3 Why is vacation important?	1	Unit7 How are children and adults different?
7	Unit4 What makes you laugh?	2	Unit8
		3	What are you afraid of?
Q Skills 1 (Oxford 出版社) を使用する。			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科 目 名	コース	学 年	単位数
英語表現 I	E	1	2

○内容・授業の進め方

自分のことを表現するための英文法を学び、様々な分野の表現に触れながら表現の幅を広げる。また、プレゼンやスピーチなどを通して、実践的な英語表現力を養う。

○学習計画

月		月	
4	Unit 1 What is a good job?	9	Unit5 How do sports make you feel?
5	Unit2 Why do people immigrate to other countries?	10	Unit6 Is it ever OK to lie?
6	Unit3 Why is vacation important?	1	Unit7 How are children and adults different?
7	Unit4 What makes you laugh?	2	Unit8
		3	What are you afraid of?
Q Skills 1 (Oxford 出版社) を使用する。			

○評価

- ①授業に意欲的に参加しているか
- ②小テスト、定期テストの取り組み
- ③提出物は期限を守って提出しているか

科目名	コース	学 年	単位数
英語会話	E	1	2

○内容・授業の進め方

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とした授業を展開していく。また、話すこととともに、聞く力も養い、最終的には模試やセンター試験においてのリスニング分野の得点向上に繋げることができるようにしたい。

○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生と英語を通じて交流を図り、幅広い知識、教養を身につける。 ・話題は、その時の旬なものを取り上げ、ディスカッションやスピーチを通して表現力を強化したい。 		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			
備考 毎日課題を出し、英語学習の定着を図る。			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

○普通科 Aコース

1. コース目標

「未来を生き抜く力とグローバルリーダーとしての資質を養う」

課外活動と学力の向上の両立に励み、国際社会で活躍できる人材をめざす。

2. 学習目標（第1学年）

高校生活に順応し、大学受験に必要な基礎学力を身につける。

模試の偏差値56を突破する。

国際社会へ関心を持ち、活躍するために必要な資質・能力を身につける。

3. 3年間の授業の流れ

（第1学年）

- ①中学校までの既習事項を応用する力を身につけ、高校での学習をスタートさせる。
- ②大学受験に必要な基礎学力をつけるために、国語、数学、英語の家庭学習（平日最低2時間）を定着させる。
- ③「授業→復習→課題（応用問題）」のサイクルを確立する。
- ④模擬試験で個々の学力水準と学力の伸長を客観的に判断し、計画的な学習を進める。
- ⑤総合学習でコース行事を通して、進路の方向性を探り、2年次の科目選択に備える。
- ⑥放課後学習や土曜講習で、知識の幅を広げる。

（第2学年）

- ①進路希望に合わせて社会と理科に選択授業があり、自分の選択に責任を持つ。
- ②1年次の基礎学力の上に、大学入試センター試験に対応できる学力をつけることを目標に学習する。（平日最低2時間半）
- ③模擬試験で全国のライバルを意識し、志望校を決定していく。
- ④学部等について調べ、志望校と受験科目、入試方法を決定する。
- ⑤放課後学習や土曜講習で、面接・小論文等の入試対策を行う。

（第3学年）

- ①模擬試験を中心に志望校合格に向けた学習を計画していく。
- ②大学入試センター試験の8割を目標に、演習を重ね学力向上に努める。
- ③入試スケジュールを作成し、保護者との協力体制を強化する。

4. その他

授業を中心に、放課後学習や家庭学習を効率的に行うことができるようにしましょう。特に1年生の時期は、自身の学力を客観的に把握し、苦手教科を重点的に学習することが必要です。また、新聞やニュースに目を通し、社会の変化や自然環境の変化、その問題点等に関心を持ちましょう。特に世界情勢と異文化理解に関心を持つことに努め、コース行事には積極的に参加し、様々な経験を積んでいきましょう。

科目名	コース	学年	単位数
国語総合（現代文）	A	1	5（2）

○内容・授業の進め方

- ・伝え合う力を確かなものにするため、理解と表現学習を共に行います。
- ・ものの見方・考え方・感じ方に触れ、総合的にとらえる感性を高めます。
- ・国語の知識を深め関心を高め、国際社会に生きる国語力を獲得します。

○学習計画

月		月	
4	○オリエンテーション	8	○表現Ⅱ 意見文
5	○随想Ⅰ 「世界は謎に満ちている」 「体の声を聞く」 ・筆者のものの見方・感じ方をつかむ。	9	○小説Ⅱ 「出来事」「ホームラン」 ・登場人物の心情の変化を読み取る。 ・比喩表現や情景描写を理解する。
	○表現Ⅰ スピーチ	10	○表現Ⅲ 感想文
6	○小説Ⅰ 「羅生門」「とんかつ」 ・全体の構成を的確にとらえて、物語の展開を理解する。 ・情景や心理描写を的確に読み取る。 ・小説の登場人物に自分を重ねながら、読む楽しみを味わう。	11	○随想Ⅱ 「里山物語」 ・筆者の意見を理解する。
7	○評論Ⅰ 「水の東西」「日本語万華鏡」 ・評論を読んで内容を的確に理解し、筆者の考えを読み取る。 ・現代社会におけるさまざまな問題点について考える。	12	○評論Ⅱ 「コミュニケーションは想像的に」 「ものまね上手・想像上手の日本技術」
		1	・論理展開と論の筋をおさえる。
		2	・批評精神を学び育てる。
		3	・歴史的な分析力を高め現代にいかす。
			・段落事の要点をつかみ、内容をつかむ。
			・筆者の主張・考えをおさえる。
備考 随時、模試の対策を行います。			

○評価

1. 授業に積極的に参加しているか。（予習の状況・授業内の発言など）
2. 定期テストの結果・小テストの結果
3. 課題が期限まで提出できているか。課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
国語総合（古典）	A	1	5（3）

○内容・授業の進め方

- ・古典（古文・漢文）を学ぶ中で、内容を正確に理解するための基本的な知識を身につけます。
- ・大学入試に向けての基礎学力の徹底を目指します。

○学習計画

月	古 文	月	漢 文
4	古文入門 ・基本事項（読み・動詞の活用） ・予習の仕方を学ぶ 古文に親しむ	4	漢文入門
5	・「なよ竹のかぐや姫」「絵仏師良秀」	5	・訓読の方法を学ぶ ・句法を学ぶ ・「五十歩百歩」「矛盾」「漁夫之利」
6	（形容詞・形容動詞の活用）	6	
7	・随筆「徒然草」 ・古文の表現に慣れ、内容を理解する力を養う。 ・助動詞について用法、意味を学ぶ。	7	唐詩 ・詩の形式を理解し、詩にうたわれた情景を読み取る。
8	・引き続き、助動詞の用法、意味を学ぶ。	8	・作者の心情を味わう。
9	・物語「伊勢物語」	9	史話
10	（物語を通じて古の生活について	10	・話の展開に即して、内容を理解する力を身につける。
11	の理解を深める）	11	
12	・模試の過去問を中心に、動詞・形容詞・形容動詞の復習をする	12	論語 ・孔子の学問・人間・政治の在り方についての考えを捉える。 ・孔子のものの見方や考え方について学ぶ。
1	・助動詞の復習	1	・模試の過去問を中心に句法の整理・復習をする
2	・演習	2	
3		3	・演習
備考 ・予習をして授業に臨むこと。 ・授業道具：古文…教科書・ノート・古語辞典・古文単語帳・体系古典文法 漢文…教科書・ノート・新明説漢文			

○評価

1. 授業に積極的に参加しているか。（予習の状況・授業内の発言など）
2. 定期テストの結果・小テストの結果
3. 課題が期限まで提出できているか。課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
世界史 A	A	1	2

○内容・授業の進め方

- ・現代社会の仕組みを理解する上で必要な歴史的背景や文化についての知識を身につける。
- ・重要な歴史的イベントや出来事を具体的に理解し、知識の定着を図り、論理的思考を養う。
→その手段として、合理的かつ論理的な発想力を養うためのディスカッションや教科書（資料）の読み取りを中心とした授業を行う。

○学習計画

月		月	
4	○人類の進化○文明の誕生 ○東アジア史	11	○世界の一体化 ○ヨーロッパ史
5	・中国史 殷～宋 ○南アジア史		・市民革命～19世紀
	・インド史	12	
6	○オリエント史 ○イスラーム史	1	・帝国主義
	・イスラーム教成立以前と後	2	・第一次世界大戦
7	・イスラーム教の特色	3	・第二次世界大戦
	○ヨーロッパ史		
	・ギリシャ ローマ		
8	・ゲルマン人		
9	○東アジア史 ・中国史 モンゴル帝国～清		
10	○ヨーロッパ史 ・ルネサンス ・大航海時代 ・宗教改革		
備考 ・教科書、ノートを準備して授業に臨むこと。			

○評価

- ・授業態度、提出物、定期テスト、課題で評価

科目名	コース	学年	単位数
日本史 A	A	1	2

○内容・授業の進め方

- ・日本の原始から近世までのおおまかな流れをつかむ
- ・日本の近現代史(明治時代～現代)について理解を深める
- ・センター試験の日本史A・日本史Bに対応できる学力をつける

○学習計画

月		月	
4	0 オリエンテーション ～高校の社会科で何を学ぶか～ 1 原始から近世までの日本 ① 旧石器時代～平安時代	10	《2学期中間テスト》 7 産業革命 8 明治時代の文化
5	② 鎌倉時代～戦国時代 ③ 安土桃山時代～江戸時代の始まり ④ 江戸時代前期 ⑤ 江戸時代中期	11	9 第1次世界大戦 10 大正政変 11 協調外交 12 政党政治 13 大戦中の経済と社会 14 大正時代の文化
6	2 幕末の日本	12	《2学期末テスト》 15 昭和恐慌
7	《1学期末テスト》 3 明治維新	1	16 軍部の台頭 17 第2次世界大戦
8	4 自由民権運動	2	18 太平洋戦争
9	5 大日本帝国憲法 6 日清・日露戦争	3	《学年末テスト》
備考 ・授業の内容の復習として週末課題を課す ・授業は授業プリントを用いる ・戦後以降は2年時の日本史Bで取り上げる			

○評価

- ① 定期テストの点数
- ② 週末課題の提出状況
- ③ 授業態度（積極的な発言）など総合的に評価する。

科目名	コース	学年	単位数
数学 I	A	1	3

○内容・授業の進め方

- 第1章では、展開、因数分解など基本的な計算力を身につけ、能率よく計算ができるようにします。また、絶対値や平方根の扱い方を学び、活用する能力を身につけます。
- 第2章では、中学校で学んだ関数の性質を確認し、2次関数について理解を深めます。定義域・値域や最大・最小について理解を深め、応用問題への活用できるようにします。
- 第3章では、正弦・余弦・正接の意味を理解し活用できる力を養います。三角形の辺と角の間の基本的な関係として、正弦定理や余弦定理を理解し、活用します。
- 第4章では、身近なテーマを取り入れ、データの分析方法について学びます。
- 大学入試を意識し、多くの応用問題を扱いますので、毎日の復習が非常に重要になります。数学が苦手と感じている人も、授業に積極的に参加して、理解を深めてください。

○学習計画

月	授業予定	月	定期試験・模試予定
4	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数	4	課題テスト
5	第3節 1次不等式	5	単元テスト
6	第4節 集合と命題		
7	第2章 2次関数	7	1学期末試験（模試過去問） 進研模試
8	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	8	夏休み課題テスト（模試過去問）
9	第3章 図形と計量 第1節 三角比		2学期中間テスト（模試過去問）
10			
11	第2節 三角形への応用	11	進研模試
12		12	2学期末試験（模試過去問）、単元テスト
1		1	年末年始課題テスト
2	第4章 データの分析		進研模試
3		3	学年末試験（模試過去問）
備考			

○評価

- ・定期試験・模試の成績をもとに評価します。試験は数学 A と一緒に行います。

科目名	コース	学年	単位数
数学 A	A	1	2

○内容・授業の進め方

- 第1章では、場合の数のもれなく数え上げることを意識し、効率よい数え上げ方を身につけます。また、確率の意味を理解し、基本的な性質や定理について理解し、具体的な事象を数学的に考察します。
- 第2章では、三角形や円と直線など、それぞれの図形が持つ重要な性質を確認し、図形に対する直観力・洞察力を身につけます。
- 第3章では、整数が持つ重要な性質を確認し、今までとは違う視点から数学の見方ができるように応用力を身につけます。
- 大学入試を意識し、多くの応用問題を扱いますので、毎日の復習が非常に重要になります。数学が苦手と感じている人も、授業に積極的に参加して、理解を深めてください。

○学習計画

月	授業予定	月	定期試験・模試予定
4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	4	課題テスト
5			
6			
7	第2節 確率	7	1学期末試験（模試過去問） 進研模試
8	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	8	夏休み課題テスト（模試過去問）
9			
10		10	2学期中間テスト（模試過去問）
11		11	進研模試
12	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用	12	2学期末試験（模試過去問）
1		1	年末年始課題テスト 進研模試
2		3	学年末試験（模試過去問）
3			
備考			

○評価

- ・定期試験・模試の成績をもとに評価します。試験は数学 I と一緒に行います。

科目名	コース	学 年	単位数
物理基礎	A	1	2

○内容・授業の進め方

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

アクティブラーニング型の授業により、問題演習を多く取り入れ、大学入試で高得点を取れる学力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	運動の表し方 (速度・加速度・落体の運動)	10	音 (音の性質・発音体の振動と共振・共鳴)
5	運動の法則 (力とそのはたらき・力のつりあい 運動の法則・摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力)	11	物質と電気抵抗 (電気の性質・電流と電気抵抗・電気とエネルギー)
6	仕事と力学的エネルギー (仕事・運動エネルギー・位置エネルギー・力学的エネルギーの保存)	12	磁場と交流 (電流と磁場・交流と電磁波)
7	熱とエネルギー (熱と熱量・熱と物質の状態・熱と仕事 不可逆変化と熱機関)	1	エネルギーの利用 (エネルギーの移り変わり・エネルギー資源と発電)
8	波の性質	2	物理学が拓く世界 (摩擦をコントロールする・エネルギーを有効利用する・見えないものを見る)
9	(波と触媒の運動・波の伝わり方)	3	本文の補足(発展)
備考			

○評価

1. 授業への参加姿勢(発言、質問、教え合い)
2. 課題の提出状況(問題集、テスト再提出)
3. 課題テスト、定期テスト結果

科目名	コース	学年	単位数
化学基礎	A	1	2

○内容・授業の進め方

「物質の構成」では原子の構造及び電子配置と周期律の関係を学ぶ。また、化学結合と物質の性質との関係を学び、物質の成り立ち等について考えることができる力を養う。

「物質の変化」では化学反応の量的関係、化学反応に関する基本的概念や法則を学ぶ。アクティブラーニングを用いて問題演習に取り組むことで、化学的知識の定着をすすめ、大学入試センター試験で高得点をとれる知識を養う。

○学習計画

月		月	
4	序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	9	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応 1 原子量・分子量・式量
5	第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表	10	2 物質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質量
6	第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオンからなる物質	11	第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基
7	2 分子と共有結合 3 分子の極性	12	2 水の電離と水溶液の pH 3 中和反応
8	4 共有結合の物質 5 金属結合と金属	1	4 塩 第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元
		2	2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応
		3	4 酸化還元反応の利用 —電離・金属の製錬—
備考			

○評価

- 意欲態度・・・話を聞く態度がしっかりとしている。
課題に取り組み、期日までに提出している。
- 授業内容の定着・・・定期テストや小テストで得点できる。
- 思考力判断力・・・科学的な表現を用いて発言・記述ができる。

科 目 名	コース	学 年	単位数
生物基礎	A	1	2

○内容・授業の進め方

身の回りの生物や生物現象の本質に関わるような基本的な事項を深く学んでいきます。

観察や実験等の探求活動を通して科学を経験的に学び、さらに生物の個々の事象を関連させ、総合的にとらえる科学的な思考力が身につくように学びます。Input および Output を意識したアクティブラーニングによる学習を通して、大学入試センター試験において8割以上の得点を目標に問題演習にも取り組みます。

○ 学習計画

月		月	
4	生物の特徴	1	生物の多様性と分布
5	・生物の多様性と共通性		・多様な植生
6	・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸		・植生の移り変わり ・気候とバイオーム
7	遺伝子とそのはたらき	2	生態系とその保全
8	・遺伝情報と DNA	3	・生態系
9	・DNA の構造と遺伝情報		・物質循環とエネルギーの流れ
10	・遺伝情報とタンパク質の合成 ・遺伝情報の分配と細胞の分化		・生態系のバランスと保全
11	生物の体内環境		
	・体液としての体内環境		
12	・腎臓と肝臓による調節		
	・自律神経とホルモンによる調節		
	・免疫		
備考			

○評価

- 意欲や態度・・・話を聞く態度がきちんとしている。
板書事項やポイントを的確にまとめている。
課題に取り組み、期日まで提出している。
- 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
- 思考力判断力・・・授業中の発言内容が科学的である。
課題を論理的に解くことができる。

以上の点を総合的に評価します。

科目名	コース	学年	単位数
体育	A	1	2

○内容・授業の進め方

1学期は陸上、スポーツテスト、2学期は球技、3学期はスキー、器械体操を中心に行う。どの種目においても、生徒同士が協力し個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解したうえで練習し、簡単なゲームまで行う。

○学習計画

月		月	
4	・オリエンテーション ・整列	8	・バレーボール
		9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
5	・柔軟、補強運動 ・スポーツテスト		・選択種目（屋外）
		10	サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グランドゴルフ
6	・陸上競技 短距離走 砲丸投げ 走り幅跳び 走り高跳び (基礎練習、記録測定)	11	・バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） ゲーム
7	・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グランドゴルフ	12	・器械運動
		1	・スキー（年3回実施）
		2	スキー授業の無い日は引き続き器械運動
		3	を継続する。
備考			
体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科 目 名	コース	学 年	単位数
保 健	A	1	1

○内容・授業の進め方

健康の考え方の変化について学び、生活習慣病や感染症、さらに薬物乱用・心の問題、交通安全などに関わる健康的な生活習慣を身につけたり、健康的な自然・社会環境づくりに参加したりする知識と能力を高められるよう学習します。

○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 健康の要因や条件について考える。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求と適応機制 心と大脳の働きについて理解し、説明できるようになる。 ・心身の相関とストレス、ストレスへの対処 ストレスと対処法について考える。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり 正しい行動選択を実現させ、健康づくりを支える環境について理解する。 	11	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康と自己実現 自己実現の道筋と達成について理解し説明することができる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とその予防 生活習慣病を防ぐ方法についてさまざまな側面から考える。 ・食事、運動、休養と健康 健康に生きるための基礎を理解する。 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり
7	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 健康影響と社会問題について理解する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の現状を把握し、危険運転行為について理解を深める。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症、エイズとその予防 感染症、エイズの問題について理解し、個人や社会で予防できる対策を考える。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義とその基本 ・心配蘇生法
9		3	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な応急手当 心配蘇生法、応急手当について理解し、説明することができる。
備考			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科目名	コース	学年	単位数
コミュニケーション 英語 I	A	1	3

○内容・授業の進め方

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とした授業を展開していく。また、話すこととともに、聞く力も養い、最終的には模試やセンター試験においてのリスニング分野の得点向上に繋げることができるようにしたい。

○学習計画

月		月	
4	即興スピーキング Unit 1, 2	9	Unit3 Why is vacation important?
5	即興スピーキング Unit 3, 4	10	Unit4 What makes you laugh?
6	Unit 1 What is a good job?	1	Unit5 How do sports make you feel?
7	Unit2 Why do people immigrate to other countries?	2 3	Unit6 Is it ever OK to lie?
<p>Q Skills 1 (Oxford 出版社) を使用する。 システム英単語, Ever Green 他 PROMINENCE English Communication I は課題として使用。</p>			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト・小テスト)

科目名	コース	学年	単位数
英語表現 I	A	1	2

○内容・授業の進め方

自分のことを表現するための英文法を学び、様々な分野の表現に触れながら表現の幅を広げる。また、プレゼンやスピーチなどを通して、実践的な英語表現力を養う。

○学習計画

月		月	
4	Bridge Lesson 中学英語文法の総復習	10	Lesson17,18,19,20 比較, 仮定法
5	Lesson1,2,3,4 文構造, 時制	11	Writing Tips1 主語と述語動詞
6	Lesson5,6,7,8,9 完了形, 助動詞, 受け身	12	Writing Tips2 前置詞のイメージ
7	Lesson10,11,12,13 to 不定詞, 動名詞, 分詞	1	Writing Tips3 接続詞
8	Lesson14,15,16	2	まとめ
9	関係代名詞, 関係副詞	3	
備考 NEW FAVORITE English Expression I, システム英単語, EverGreen その他教材を使用			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト・小テスト)

○普通科 S コース

1. コース目標

幅広い進路に対応できる学力を身に付ける
社会に通用する知識を学ぶ
パソコンの知識と技術を身につける。

2. 学習目標（第1学年）

高校生活に順応し、家庭学習の習慣を身に付け、基礎学力の定着を図る。

3. 3年間の授業の流れ

【第1学年】

授業を通し基本的な学力を身につけます。
企業見学を行います。
パソコンに関する基礎的な技術を学びます。また1回目の MOS 検定（Excel）があります。

【第2学年】

検定2回（PowerPoint Word）を行います。
インターンシップを1回行い、社会的ルールを学びます。またインターンシップを通して自分の将来の進路を考えます。

【第3学年】

進路目標に合わせて、コース別に授業を行います。進学コース、就職コースに分かれて自分の進路目標を達成します。管内就職希望者はインターンシップがあります。

4. その他

科目名	コース	学年	単位数
国語総合	S	1	4

○内容・授業の進め方

- ・伝え合う力を確かなものにするため、理解と表現学習を共に行います。
- ・ものの見方・考え方・感じ方に触れ、総合的にとらえる感性を高めます。
- ・国語の知識を深め関心を高め、国際社会に生きる国語力を獲得します。
- ・古典（古文・漢文）を学ぶ中で、内容を正確に理解するための基本的な知識を身につけます。

○学習計画

月		月	
4	○オリエンテーション	8	○小説 「羅生門」
5	○随想 「ルリボシカミキリの青」 「待つということ」 「里山物語」 ・筆者のものの見方・感じ方をつかむ。	9	・登場人物の心情の変化を読み取る。
	○表現 スピーチ・意見文・感想文	10	・比喩表現や情景描写を理解する。
	○小説	11	○評論 「美しさの発見」 ・評論を読んで内容を的確に理解し、筆者の考えを読み取る。
6	「とんかつ」 ・全体の構成を的確にとらえて、物語の展開を理解する。 ・情景や心理描写を的確に読み取る。 ・小説の登場人物に自分を重ねながら、読む楽しみを味わう。	12	・現代社会におけるさまざまな問題点について考える。
	○随想 「りんごのほっぺ」		○古文 「児のそら寝」「雪のおもしろう降りたりし朝」「うつくしきもの」「古今集」 古語辞典の使い方を知る 古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎を理解する。
7	○小説 「沖縄の手記から」	1	○漢文
	○評論Ⅰ 「手技に学ぶ」 ・評論を読んで内容を的確に理解し、筆者の考えを読み取る。 ・現代社会におけるさまざまな問題点について考える。	2	「守株」「五十歩百歩」「借虎威」「春暁」
		3	・漢文の構造を知る。 ・訓読の仕方 ・返り点の種類と用法を理解する。 ・状況や時代背景を理解し、情景を読み取る。 ・作者の心情を味わう。
備考			

○評価

1. 授業に積極的に参加しているか。（予習の状況・授業内の発言など）
2. 定期テストの結果・小テストの結果
3. 課題が期限まで提出できているか。課題への取り組み

科目名	コース	学年	単位数
総合実践 A	S	1	1

○内容・授業の進め方

小論文対策として、200字程度から文章を書かせる。

原稿用紙の使い方や書き言葉のルールについて授業をし、小論文の解答の作り方を学んで行く。

文章の要点をとらえる力と、自らの意見を分かりやすく文章として表現する力を身につける事を目標とする。

○学習計画

月		月	
4	小論文と作文の違い	1	小論文の解答方法②
5	書き言葉と話し言葉について		3行小論文に挑戦
	原稿用紙の使い方		↓
6	一文の要点をとらえる	2	新聞記事に対する
7	↓	3	意見をまとめる
8	言葉とことばのつながり		
9	↓		
10	文の成り立ち		
11	↓		
12	小論文の解答方法①		
	3行小論文に挑戦		
	↓		
備考			

○評価

- ・ 授業への参加意欲
- ・ 課題への取り組み
- ・ 試験の成績

以上を総合的に評価する。

科目名	コース	学年	単位数
現代社会	S	1	3

○ 内容・授業の進め方

21世紀の今、現代の問題を一人一人が見つめて、問題と自己との関わり、本質をしっかりと追求して、今「自分は何が出来るか、どのように生きていくことが出来るか」を考えます。基本的な知識を身につけることで考察の範囲を広げて、先人たちの生き方を学びましょう。

○学習計画

月		月	
4	第1編『現代に生きる私達の課題』 ・地球環境問題・エネルギー・資源問題	10	第3章 「民主社会と倫理」
5	・生命問題・宗教について ・豊かさについて	11	・国家と国民との関係 第4章
6	第2編『現代社会の在り方と私たちの生き方』	12	「現代の民主政治」 (民主政治の基本原理)
7	第1章 「現代の社会生活と青年」	1	・基本的人権と憲法 ・日本の平和主義
8	(現代社会の特質と私たちの生活) ・少子高齢化社会	2	・国会、内閣、裁判所の役割 第5章
9	・情報化社会の現状と問題点 (現代の経済生活と経済活動) ・技術革新と産業構造の変化	3	「国際社会と日本の役割」 (国際社会の動向) ・経済体制と冷戦 ・核兵器問題 ・貿易拡大、貿易摩擦
備考 長期休み(夏・冬・春)の際には時事的な問題にも目を向けるための課題を出して、現代に生きる人間としての視野を広げたい。			

○評価

1. 基礎・基本的事項の定着度を定期テスト、小テストを使って図る。
2. 授業に積極的に取り組み、他人の意見を聞きながら、自分の考えを発信することができるか
3. 定期テスト・小テスト

以上を総合評価する

科目名	コース	学年	単位数
数学 I	S	1	3

○内容・授業の進め方

- ・習熟度別に授業を行いながら、中学校までに学習事項を再確認し、高校の学習につながるよう準備をします。
- ・第1章では、展開、因数分解など基本的な計算力を身につけ、能率よく計算ができるようにします。また、絶対値や平方根の扱い方を学び、活用する能力を身につけます。
- ・第2章では、中学校で学んだ関数の性質を確認し、2次関数について理解を深めます。関数のグラフを利用して、2次不等式の解法も身につけます。
- ・第3章では、正弦・余弦・正接の意味を理解し活用できる力を養い、新しい視点から図形の性質を考える力を身につけます。
- ・今後の学習の基礎となる内容です。確実に理解を定着させることができるように、毎時間の予習に取り組んでください。

○学習計画

月		月	
4	《中学校の復習》 《第1章》	12	・期末テスト 1・2学期総復習
5	第1節 式の展開と因数分解 単元テスト	1	《第3章》 第1節 三角比
6	第2節 実数 第3節 1次不等式	2	第2節 図形の計量
7	・期末テスト 第4節 集合と論理 1学期総復習	3	・学年末テスト
8	《第2章》		
9	第1節 2次関数とそのグラフ		
10	第2節 2次関数の最大・最小 ・中間テスト		
11	第3節 2次方程式・不等式		
備考 定期テスト以外に単元ごとの確認テストをおこなう。 通常授業の中に、生徒自身が発表や説明をするための時間を設けることがある。			

○評価

- ・定期試験・課題テスト等の結果を最重要視する。基本的に提出物等による加点（平常点）はおこなわない。
- ・単元ごとの確認テスト等も評価対象とする。

科目名	コース	学 年	単位数
物理基礎	S	1	2

○内容・授業の進め方

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

アクティブラーニング型の授業により、問題演習を多く取り入れ、大学入試で高得点を取れる学力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	運動の表し方 (速度・加速度・落体の運動)	10	音 (音の性質・発音体の振動と共振・共鳴)
5	運動の法則 (力とそのはたらき・力のつりあい 運動の法則・摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力)	11	物質と電気抵抗 (電気の性質・電流と電気抵抗・電気とエネルギー)
6	仕事と力学的エネルギー (仕事・運動エネルギー・位置エネルギー・力学的エネルギーの保存)	12	磁場と交流 (電流と磁場・交流と電磁波)
7	熱とエネルギー (熱と熱量・熱と物質の状態・熱と仕事 不可逆変化と熱機関)	1	エネルギーの利用 (エネルギーの移り変わり・エネルギー資源と発電)
8	波の性質	2	物理学が拓く世界 (摩擦をコントロールする・エネルギーを有効利用する・見えないものを見る)
9	(波と触媒の運動・波の伝わり方)	3	本文の補足(発展)
備考			

○評価

1. 授業への参加姿勢(発言、質問、教え合い)
2. 課題の提出状況(問題集、テスト再提出)
3. 課題テスト、定期テスト結果

科 目 名	コース	学 年	単位数
体 育	S	1	2

○内容・授業の進め方

1学期は陸上、スポーツテスト、2学期は球技、3学期はスキー、器械体操を中心に行う。どの種目においても、生徒同士が協力し個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解したうえで練習し、簡単なゲームまで行う。

○学習計画

月		月	
4	・オリエンテーション ・整列	8	・バレーボール
		9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
5	・柔軟、補強運動 ・スポーツテスト		・選択種目（屋外）
		10	サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グラウンドゴルフ
6	・陸上競技 短距離走 砲丸投げ 走り幅跳び 走り高跳び (基礎練習、記録測定)	11	・バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） ゲーム
7	・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グラウンドゴルフ	12	・器械運動
		1	・スキー（年3回実施）
		2	スキー授業の無い日は引き続き器械運動
		3	を継続する。
備考			
体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科 目 名	コース	学 年	単位数
保 健	S	1	1

○内容・授業の進め方

健康の考え方の変化について学び、生活習慣病や感染症、さらに薬物乱用・心の問題、交通安全などに関わる健康的な生活習慣を身につけたり、健康的な自然・社会環境づくりに参加したりする知識と能力を高められるよう学習します。

○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 健康の要因や条件について考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求と適応機制 心と脳の働きについて理解し、説明できるようになる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり 正しい行動選択を実現させ、健康づくりを支える環境について理解する。	11	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の相関とストレス、ストレスへの対処 ストレスと対処法について考える。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とその予防 生活習慣病を防ぐ方法についてさまざまな側面から考える。	12	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康と自己実現 自己実現の道筋と達成について理解し説明することができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、運動、休養と健康 健康に生きるための基礎を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり 交通事故の現状を把握し、危険運転行為について理解を深める。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 健康影響と社会問題について理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義とその基本 ・心配蘇生法
9	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症、エイズとその予防 感染症、エイズの問題について理解し、個人や社会で予防できる対策を考える。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な応急手当 心配蘇生法、応急手当について理解し、説明することができる。
備考			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科目名	コース	学年	単位数
音楽 I	S	1	2

○内容・授業の進め方

- ・幅広く歌うこと・楽器に親しむこと・演奏すること・アンサンブルへの取り組みなど、生徒同士の交流を深めながら音楽に広く親しむという「活動」を中心に授業を進める。
- ・読譜や記譜の力を養う為、音楽の基礎学習をする。音楽を言語で伝え、鑑賞する。
- ・発表する力を磨き、表現の工夫や鑑賞をする。

達成目標：表現活動に積極的に取り組む。 生徒同士協力し合い学習する。

楽しみながら表現の工夫をしあう。

○学習計画

月		月	
4	オリエンテーション 校歌応援歌をしっかりと歌える。 歌唱に親しむ	9	楽器で演奏しようその1
5	声の多様性 校歌応援歌歌唱テスト	10	コードネームの仕組み ・期末試験
6	音楽の要素と組み立て（	11	言葉と音楽 教材：この道 ふる里 さとうきび畑
7	リズムアンサンブルへの取り組み ・期末試験	12	楽器で演奏しようその2 楽器：ハンドベル
		1	音楽の流れ（P92～）
		2	ハンドベル演奏発表
		3	・学年末試験
備考			

○評価

定期試験で学習確認テストをし、50%に評価します。また、実技演奏・発表の態度・意欲も含み50%評価します。更に、日常の学習に積極的に参加しているか、提出物を期限内に提出しているかを平常点に評価します。

発表・演奏内容：一学期：歌唱テスト（校歌・応援歌） ボディーPERCUSSION 演奏

二学期：コード演奏・

三学期：アンサンブル発表 ・合唱への取り組み

定期テスト（50%）1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断 3) 知識・理解

演奏・発表（50%）1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断 3) 技能・表現

科目名	コース	学年	単位数
美術 I	S	1	2

○内容・授業の進め方

課題に対して作品を制作していきます。制作のみで終わらないようにお互いの作品を鑑賞しあってまとめや反省を行い、定期テストや小テストで課題の確認を行います。また作家の制作活動や作品を鑑賞して様々な表現方法や価値観について学びます。美術史と現代の美術様式について学びます。

○学習計画

月		月	
4	オリエンテーション 絵画 観賞と表現 記憶スケッチ	10	絵画 観賞と表現 自己を表現する
5	有名作品の模写 絵画 表現 鉛筆デッサンによるイメージの広がり	11	彫刻 鑑賞と表現 現代彫刻と新しい素材
6	デザイン 観賞と表現 カラーリングの基礎 画像処理の基礎	12	絵画 表現 版画 発想から印刷まで
7	彫刻 観賞と表現 石彫刻による日本の美	1	
8	マルチメディア表現 観賞と表現	2	
9	映像にみる現代性	3	各メディアのまとめ
備考 時代や流行を無視することなく積極的に取り入れるために制作テーマは年度当初にすべて決定していない。また各単元の教材変更もありうる。			

○評価

評価基準全体（課題制作・定期テスト）

- 1) 関心・意欲・態度 (25%)
- 2) 思考・判断 (25%)
- 3) 技能・表現 (25%)
- 4) 知識・理解 (25%)

評価基準内訳（上記項目 1～4）の

定期テスト (40%) 1) 10% 2) 15% 3) 25%

課題制作 (60%) 1) 15% 2) 10% 3) 25%

科 目 名	コース	学 年	単位数
書道 I	S	1	2

○内容・授業の進め方

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす自己表現が主体的にできるよう配慮する。

○学習計画

月		月	
4	書の世界へようこそ 用具・用材 姿勢・執筆	12	行書の学習 ・さまざまな行書 ・行書の特徴 ・蘭亭序
5	基礎的な筆使い 様々な用筆・運筆による表現	1	仮名の学習 ・仮名の成立と発達 ・仮名の種類 ・基本的な筆使い
6	漢字の書の学習 書道の学習方法	2	・単体と連綿 ・蓬莱切
7	楷書の学習 ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑	3	漢字、仮名交じりの書 書作集の作成
8	・顔氏家廟碑		
9	・雁塔聖教序 ・牛橛造像記 ・鄭義下碑		
10	毛筆書写検定練習		
11	毛筆書写検定試験		
備考			

○評価

- ・意欲的に課題に取り組んでいるか。(書く姿勢や練習枚数)
- ・古典作品に興味を持ち、特徴を理解して表現しているか。
- ・課題作品をきちんと提出しているか。

評価基準 定期試験 (40%) 作品 (60%)

科目名	コース	学年	単位数
コミュニケーション 英語基礎	S	1	3

○内容・授業の進め方

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とした授業を展開していく。英語で「話す」「書く」「聞く」「読む」の4技能を伸ばすための活動を取り入れる。

○学習計画

月		月	
4	Lesson1 We Choose 一般動詞	10	Lesson6 The Power of Bonds 不定詞
5	Lesson2 World Foods 一般動詞の現在形(主語が三人称単数の場合)	11	Lesson7 My School Days 受け身・動名詞
6	Lesson3 Sunshine Day be 動詞	12	まとめ
7	まとめ	1	Lesson8 Ice Hotel 現在完了形
8	Lesson4 Our Life 助動詞・進行形	2	For Reading The Duck in the Gun
9	Lesson5 Super Cool Biz Project Be 動詞・一般動詞の過去形	3	まとめ

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科目名	コース	学 年	単位数
英語表現 I	S	1	2

○内容・授業の進め方

基本的な文法を復習しながら、英語を使うことを目標とした授業を展開していく。

○学習計画

月		月	
4	中学の復習 辞書の引き方 代名詞 現在形	10	現在分詞、過去分詞
5	過去形 動詞の活用 受動態	11	関係代名詞
6	5文型 現在進行形・過去進行形	12	まとめ
7	まとめ	1	現在完了、過去完了 比較級、最上級
8	未来の表現 動名詞	2	使役動詞、知覚動詞
9	不定詞	3	まとめ
備考 教科書 SELECT I English Expression			

○評価

- ①授業への参加意欲
- ②授業での発言
- ③定期、課題テスト

科目名	コース	学年	単位数
社会と情報	S	1	2

○内容・授業の進め方

- ・「情報」が持つ力と役割について学び、効果的な活用方法を理解する。
- ・演習や小テストを通して、情報を適切に収集・処理・発信する力を高めるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度とその技術を身につける。

○学習計画

月		月	
4	第1章 情報社会 1 情報と社会 2 社会の変化と個人の責任 3 情報社会の問題 6 メディアの選択 7 個人情報とその保護	9	6 知的財産権の概要と産業財産権 7 著作権 8 著作物の利用
5	第2章 コミュニケーション 2 メールの利用 3 ネットワーク 5 インターネットの仕組み 6 Web ページの閲覧とメールのしくみ 7 インターネットのサービス 9 クラウドコンピューティング	10	第4章 デジタル化 1 デジタル情報の特徴 2 静止画像の扱い 4 音声のデジタル化 5 色のデジタル化 6 画像のデジタル化 7 圧縮のしくみ
6		11	
7	第3章 情報安全 1 個人による安全対策 3 安全のための情報技術 5 法規による安全対策	12	第5章 問題解決 1 問題を解決するには 6 表とグラフの活用 7 分析の実際 9 プレゼンテーションの方法 10 Web ページによる情報発信
8		1	
		2	
		3	
備考			

○評価

- ・定期試験（50%）＋小テスト（30%）＋授業態度・提出物（20%）とする
定期試験（50%）→得点より評価
・・・思考・判断（10%）＋知識・理解（40%）
授業態度・提出物（20%）→発言・提出物・出欠状況・その他より評価
・・・関心・意欲・態度（10%）＋技能・表現（10%）

科目名	コース	学年	単位数
アプリケーション I	S	1	2

○内容・授業の進め方

- ・Microsoft Office Specialist (Excel) 試験の合格を目指す。
- ・実習・実践を通して、Excel の利用方法をマスターする。

○学習計画

月		月	
4	【Excel 演習】 ◎基本事項 ①起動・終了・入力・保存・上書 ◎オートフィルと行・列の操作 ①オートフィル ②行と列の挿入・削除・表示・非表示 ◎表の作成 ①セルの結合 ②罫線の操作 ◎セルの書式設定 ①フォント・色の設定 ②縦書き・横書きと文字揃えの設定 ◎基本的な関数の利用 ①集計関数 (基本) ◎グラフの作成 ①種類とスタイルの変更 ②サイズの変更 ◎並べ替えとデータの抽出 ①セルの並べ替え ②フィルタリング	8	◎条件付き書式の設定
		9	◎図の挿入と効果の設定 ①図の挿入 ②効果の設定
		10	◎文字列操作関数の利用 ◎テーブルの操作 ①小計の計算
5		11	②スタイルの変更 ◎ブックの操作
		12	①シート of 操作・保護・配布 ◎表示と印刷
6		1	①拡大表示・縮小表示 ②改ページプレビューの設定 ◎関数の応用
		2	①検索関数 ②集計関数 (応用)
7		3	③論理関数 ◎問題演習
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Office Specialist 試験対策を行い、全員が受験する ・6時間～8時間毎に小テストを実施 		

○評価

- ・実技試験 (80%) + 授業態度・提出物 (20%) とする
 実技試験 (80%) → 制作物の完成度・正確性より評価
 ・ ・ ・ 技能・表現 (30%) + 思考・判断 (20%) + 知識・理解 (30%)
 授業態度・提出物 (20%) → 発言・提出物・出欠状況・その他より評価
 ・ ・ ・ 関心・意欲・態度 (10%) + 技能・表現 (10%)
- ・Microsoft Office Specialist 試験の結果を評価に含める

科目名	コース	学年	単位数
Web デザイン	S	1	1

○内容・授業の進め方

画像処理ソフトで画像の作成、加工を行い、さらにプレゼンのための動画作成と連動させながら、Web ページの各コンテンツ制作のための基礎学習を行う。

○学習計画

月		月	
4	ファイル操作 パワーポイント操作実習	9	フォトショップによる画像の作成 1
5	パワーポイントによるアニメーション動画制作	10	画像の合成
6	↑ ↓	11	レイヤーを使った画像の合成
7		12	レイヤーを使ったマッピング
8		1	テキストレイヤーを使った文字デザイン
		2	マッピングによる山形県観光地図制作
		3	
備考（使用ソフト） Adobe Photoshop Elements Microsoft Office			

○評価

・実技試験（80%）＋ 授業態度・提出物（20%）とする

実技試験（80%）→ 制作物の完成度・正確性より評価

・・・技能・表現（30%）＋ 思考・判断（20%）＋ 知識・理解（30%）

授業態度・提出物（20%）→ 発言・提出物・出欠状況・その他より評価

・・・関心・意欲・態度（10%）＋ 技能・表現（10%）

○普通科 T コース

1. コース目標

「自分をみつけ、自分を育てよう」

2. 学習目標

- (1) 社会で大切な物事を知る
- (2) 基礎学力をしっかり身につける
- (3) 様々な体験活動を通し自分を見つける
- (4) 資格取得に挑戦し、将来に生かす

3. 3年間の授業の流れ

【第1学年】

クリエイティブタイム 3単位

- 1) 体験活動を通し、視野を広げ自己を見つめる。
- 2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- 3) 高校生としてのマナーを学ぶ。
- 4) 社会で大切な物事を知る。
聞く・挨拶・返事、多くの大人と具体的活動の中で公的にふれ合う。

【第2学年】

クリエイティブタイム 3単位

- 1) 体験活動を通し、視野を広げ自己を見つめる。
- 2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- 3) 秘書検定に向けた学習を通して、社会で必要なマナーや知識を身につける。
- 4) 社会に自らアプローチする力をつける。
目上の方の指示を受け、内容を共に取り組む者にしっかり伝えて教えたり発表する。

【第3学年】

クリエイティブタイム 3単位

- 1) 体験活動を通し、視野を広げ自己を見つめる。
- 2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- 3) 進路に関するマナーを実践。
- 4) 社会に自らアプローチする。
学んだ事を実践し、積極的に伝え・教え・発表できる。

4. その他

ウオーキングチャレンジ（ポップウオーク） 1年次

研修旅行 2年次

科目名	コース	学年	単位数
国語総合	T	1	4

○内容・授業の進め方

- ◇自分の感じたことや考えたことを的確にまとめ、自らの言葉で表現する力を高めます。
- ◇現代文・古文・漢文を学ぶ中で、内容を正確に理解するための基本的な知識を身につけます。
- ◇言語文化に対する関心を深め、読みつがれてきた作品を学習し、現代にも通じるものがあることの理解を深めます。

○学習計画

月		月	
4	◎現代文 ○随想 ・筆者のものの見方・感じ方をつかむ ・説明の仕方について理解する。 ・漢字小テスト	8	◎現代文
5	○小説	9	○小説 ・主題・テーマ・構成をとらえる ・人間の心理について考えを深める
6	・情景や心理描写を的確に読みとる ・小説の登場人物に自分を重ねながら、読む楽しみを味わう ・登場人物の感情を正しく理解し、豊かな心を養う ・修辞技法を理解する ・漢字小テスト	10	・作者の意図をくみとり、効果的な表現を理解する ・漢字小テスト
7	○詩歌 ・形式と表現内容を理解し、読み味わう ・鑑賞文を書く	11	・主人公の行動について考察を深める
		12	○評論 ・筆者の考え方を正しく理解する。 ・論理的な考え方を養う
			◎古文
		1	○古文基礎 ・古文と現代文の違いを知る。
		2	・基礎的知識を身につける。 ・説話の面白さを通し古文の世界に親しみ現代との共通点を理解する。
		3	・古文の表現に慣れ内容を理解する。 ・中世の人々の見方感じ方をつかむ。
備考 基本的な漢字学習は問題集や教科書を使い小テストを実施。			

○評価

- ・定期試験の他、小テストや提出物授業態度等を点数化し、合わせて評価する。

科目名	コース	学年	単位数
日本史A	T	1	2

○内容・授業の進め方

- ・中学校で学んだ歴史をより深く学習する。
- ・明治時代以降を中心とする日本の成り立ちを国際的な視点を踏まえて学習する。現代の日本人はどのような人々であり、日本はどのように出来上がってきたのかということを手ら考え、それをふまえた上で国際社会を生きていける力をつける。
- ・個々の地域を知ることにより、郷土に誇りや愛着を持てるようにする。
- ・巡検を通して興味・関心を持たせる。

○学習計画

月		月	
4	江戸時代以前の歴史	10	条約改正と東アジアの情勢 日清・日露戦争
5	国際関係の変化と幕藩体制の動揺 国際情勢の変化とペリー来航	11	第一次世界大戦 大正デモクラシー 軍部の台頭
6	開国と国内秩序の混乱 明治新政府の成立	12	日中戦争 太平洋戦争
7	国際関係と対外政策	1	戦後の日本
8		2	
9	自由民権運動と立憲体制の成立	3	
備考 前近代の学習では、旧石器～古墳までは、現場での巡検を通して学習させ、グループで話し合わせる。			

○評価

- ・学習態度・巡検態度
- ・定期試験
- ・課題・ノート提出など総合的に評価

科目名	コース	学年	単位数
地域探求	T	1	1

○内容・授業の進め方

- ・地域の歴史や産業について学ぶ
- ・地域の歴史遺産を自分の目で見ることで地域の歴史について深く理解する。
- ・見学したことをまとめて発表することで情報を適切に処理する力を身につける。

○学習計画

月		月	
4	① 新庄の歴史を知る ・新庄の歴史を資料で学ぶ	11	③北村山地域の歴史を知る ・尾花沢の産業の歴史を資料で学ぶ
5	・ふるさと歴史センターや戸沢家墓所 を見学する ・見学したものをもとに新庄の歴史に ついてまとめ発表する	12	・尾花沢の銀山・徳良湖を見学する ・見学したものをもとに北村山地域の歴史 についてまとめ発表する
6	②最上郡内の歴史を知る ・最上郡内の歴史を資料で学ぶ	1	④1年間のまとめ ・1年間で学んだことを、個人でのまとめ とグループでの発表をする
7	・真室川町の鮭延城を見学する ・大蔵村の清水城を見学する	2	
8	・最上町の小国城を見学する	3	
9	・鮭川村の庭月観音を見学する ・金山町の景観・神室ダムを見学する		
10	・見学したものをもとに最上の歴史に ついてまとめ発表する		
備考			

○評価

- ・授業・見学での態度
- ・個人レポートや、グループ発表などの取り組み状況などを総合的に評価する

科目名	コース	学年	単位数
クリエイティブタイム	T	1	3

○ 内容・授業の進め方

目 標

- (1) 体験活動を通し、視野を広げ、自己を見つめる。
- (2) 地域の方々との関わり合いの中から好ましい人間関係を学び、感謝する心や感動する心など豊かな人間性を身につける。
- (3) 資格取得に挑戦し、過程を大切にしながら、進路を選択する一助とする。

1 体験活動（5月～12月にかけて）

- ①工芸制作体験 ②自然の恵体験 ③子ども文化体験 ④郷土文化体験
発表会 12月9日（土）

2 マナー学習とライセンスチャレンジ

- ・ 1年次 マナー学習・高校生のマナー
- ・ 2年次 秘書検定に向けた学習
- ・ 3年次 秘書検定（6月受検）

○学習計画

月		月	
4	マナー学習	10	体験活動
5	体験活動	11	体験活動
6	体験活動	12	体験活動
7	体験活動	1	マナー学習
8	体験活動	2	マナー学習
9	体験活動	3	マナー学習
備考			

科目名	コース	学年	単位数
数学Ⅰ・数学総合	T	1	2・2

○内容・授業の進め方

「マナトレ」では小学校段階からの復習を行います。つまづきを解消し、高校数学の内容に対応できる力をつけましょう。

○学習計画

月		月	
4	マナトレ	12	【挑戦編】
5	【基礎編】		・ 標準編まとめ
	・ 四則計算（加法・減法）	1	・ 文字式の計算・一次方程式
6	・ 四則計算（乗法・除法）	2	・ 比例・一次関数
	・ 小数	3	・ 因数分解・二次方程式
7	・ 分数		
8			
9	【標準編】		
	・ 基礎編まとめ		
10	・ 比・割合・単位		
	・ 量と測定		
11	・ 正負の数・平方根		
備考			

○評価

1. 授業に積極的に参加しているか。(演習などへの取り組み)
2. 計算など基礎となる部分を理解できているか。
3. 文章題の文章を理解し、式を立てることができるか。
4. 定期テスト（年4回）＋課題テスト
5. 小テスト

科目名	コース	学年	単位数
生物基礎	T	1	3

○内容・授業の進め方

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、観察や実験などを行う。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

○学習計画

月		月	
4	1 生物の特徴 ○生物の共通性 生きているとは？	9	3 生物の体内環境の維持 ○体内環境の維持 体内環境の特徴 体内循環を調節する器官
5	○生命活動とエネルギー 生命活動を支える代謝 生物体内のエネルギー交換	10	○体内環境を保つ仕組み 自律神経による調節 ホルモンによる調節 血糖値の調節
6	2 遺伝子とその働き ○生物と遺伝子 DNA の構造 DNA ゲノム ○遺伝子の均等配分 細胞分裂と DNA DNA の倍加	11	○体内環境を守る仕組み 免疫のシステム 免疫とヒト
7	DNA の正確な複製 ○タンパク質の設計図 DNA とタンパク質合成	12	4 生物の多様性と生態系 ○植生の多様性 生態系における植物の役割 植生の遷移
8	生命現象を支えている遺伝子	1	○気候とバイオーム 地球上の植生分布
		2	さまざまなバイオーム ○生態系とその保全
		3	エネルギーと物質の循環 生態系のバランスと保全
備考			

○評価

- 意欲や態度・・・話を聞く態度がきちんとしている。
課題に取り組み、期日まで提出している。
- 授業内容の定着・・・課題テストや定期テストで得点できる。
- 思考力判断力・・・授業中の発言内容が科学的である。
課題を論理的に解くことができる。 以上の点を総合的に評価します。

科目名	コース	学年	単位数
体育	T	1	2

○内容・授業の進め方

1学期は陸上、スポーツテスト、2学期は球技、3学期はスキー、器械体操を中心に行う。どの種目においても、生徒同士が協力し個人やチームの課題を解決出来るようにする。また、スポーツの特性を理解したうえで練習し、簡単なゲームまで行う。

○学習計画

月		月	
4	・オリエンテーション ・整列	8	・バレーボール
		9	基礎練習（パス、サーブ、スパイク） ゲーム
5	・柔軟、補強運動 ・スポーツテスト		・選択種目（屋外）
		10	サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グラウンドゴルフ
6	・陸上競技 短距離走 砲丸投げ 走り幅跳び 走り高跳び (基礎練習、記録測定)	11	・バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） ゲーム
7	・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス ソフトボール、グラウンドゴルフ	12	・器械運動
		1	・スキー（年3回実施）
		2	スキー授業の無い日は引き続き器械運
		3	動を継続する。
備考			
体調不良等で見学する場合であっても、運動着に確実に着替えて授業に参加すること。			

○評価

1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。
2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。
3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。
4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。
5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。

科 目 名	コース	学 年	単位数
保 健	T	1	1

○内容・授業の進め方

健康の考え方の変化について学び、生活習慣病や感染症、さらに薬物乱用・心の問題、交通安全などに関わる健康的な生活習慣を身につけたり、健康的な自然・社会環境づくりに参加したりする知識と能力を高められるよう学習します。

○学習計画

月		月	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 健康の要因や条件について考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求と適応機制 心と大脳の働きについて理解し、説明できるようになる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり 正しい行動選択を実現させ、健康づくりを支える環境について理解する。	11	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の相関とストレス、ストレスへの対処 ストレスと対処法について考える。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とその予防 生活習慣病を防ぐ方法についてさまざまな側面から考える。	12	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康と自己実現 自己実現の道筋と達成について理解し説明することができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、運動、休養と健康 健康に生きるための基礎を理解する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・交通社会における運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり
8	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 健康影響と社会問題について理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の現状を把握し、危険運転行為について理解を深める。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症、エイズとその予防 感染症、エイズの問題について理解し、個人や社会で予防できる対策を考える。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義とその基本 ・心配蘇生法 ・日常的な応急手当 心配蘇生法、応急手当について理解し、説明することができる。
備考			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト)

科 目 名	コース	学 年	単位数
音楽 I	T	1	2

○内容・授業の進め方

- ・幅広く歌うこと・楽器に親しむこと・演奏すること・アンサンブルへの取り組みなど、生徒同士の交流を深めながら音楽に広く親しむという「活動」を中心に授業を進める。
- ・読譜や記譜の力を養う為、音楽の基礎学習をする。音楽を言語で伝え鑑賞する。
- ・発表する力を磨き、表現の工夫や鑑賞をする。

達成目標：表現活動に積極的に取り組む。生徒同士協力し合い学習する。

楽しみながら表現の工夫をしあう。

○学習計画

月		月	
4	オリエンテーション 校歌応援歌をしっかりと歌える。 歌唱に親しむ	8	楽器で演奏しようその1
		9	コードネームの仕組み
		10	言葉と音楽 (P66～)
5	声の多様性	11	教材：この道 ふる里 さとうきび畑 楽器で演奏しようその2 楽器：ハンドベル
	校歌応援歌歌唱テスト	12	・期末試験
6	音楽の要素と組み立て (P20～	1	音楽の流れ
7	リズムアンサンブルへの取り組み ・期末試験	2	ハンドベル演奏発表
		3	・学年末試験
備考			

○評価

定期試験で学習確認テストをし、50%に評価します。また、実技演奏・発表を發表の態度・意欲も含み50%評価します。更に、日常の学習に積極的に参加しているか、提出物の期限内に提出しているかを平常点に評価します。

発表・演奏内容：一学期：歌唱テスト 二学期：コード弾き分けテスト

三学期：アンサンブル発表

定期テスト (50%) 1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断 4) 知識・理解

演奏・発表 (50%) 1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断 3) 技能・表現

科 目 名	コース	学 年	単位数
美術 I	T	1	2

○内容・授業の進め方

課題に対して作品を制作していきます。制作のみで終わらないようにお互いの作品を鑑賞しあってまとめや反省を行い、定期テストや小テストで課題の確認を行います。また作家の制作活動や作品を鑑賞して様々な表現方法や価値観について学びます。美術史と現代の美術様式について学びます。

○学習計画

月		月	
4	オリエンテーション 絵画 観賞と表現 記憶スケッチ	10	絵画 観賞と表現 自己を表現する
5	有名作品の模写 絵画 表現 鉛筆デッサンによるイメージの広がり	11	彫刻 鑑賞と表現 現代彫刻と新しい素材
6	デザイン 観賞と表現 カラーリングの基礎 画像処理の基礎	12	絵画 表現 版画 発想から印刷まで
7	彫刻 観賞と表現 石彫刻による日本の美	1	
8	マルチメディア表現 観賞と表現	2	
9	映像にみる現代性	3	各メディアのまとめ
備考 時代や流行を無視することなく積極的に取り入れるために制作テーマは年度当初にすべて決定していない。また各単元の教材変更もありうる。			

○評価

評価基準全体（課題制作・定期テスト）

- 1) 関心・意欲・態度 (25%)
- 2) 思考・判断 (25%)
- 3) 技能・表現 (25%)
- 4) 知識・理解 (25%)

評価基準内訳（上記項目1～4）の

- | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|
| 定期テスト (40%) | 1) 10% | 2) 15% | 4) 25% |
| 課題制作 (60%) | 1) 15% | 2) 10% | 3) 25% |

科目名	コース	学年	単位数
書道 I	T	1	2

○内容・授業の進め方

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす自己表現が主体的にできるよう配慮する。

○学習計画

月		月	
4	書の世界へようこそ 用具・用材 姿勢・執筆	12	行書の学習 ・さまざまな行書 ・行書の特徴
5	基礎的な筆使い 様々な用筆・運筆による表現 漢字の書の学習	1	・蘭亭序 仮名の学習 ・仮名の成立と発達
6	書道の学習方法 楷書の学習	2	・仮名の種類 ・基本的な筆使い ・単体と連綿
7	・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・顔氏家廟碑	3	・蓬萊切 漢字、仮名交じりの書 書作集の作成
8	・雁塔聖教序		
9	・牛橛造像記 ・鄭義下碑		
10	毛筆書写検定練習		
11	毛筆書写検定試験		
備考			

○評価

- ・意欲的に課題に取り組んでいるか。(書く姿勢や練習枚数)
- ・古典作品に興味を持ち、特徴を理解して表現しているか。
- ・課題作品をきちんと提出しているか。

評価基準 定期試験 (40%) 作品 (60%)

科目名	コース	学年	単位数
コミュニケーション 英語基礎	T	1	2

○内容・授業の進め方

自信を持って声を出すことを目標に、ALT とのコミュニケーションやゲームを楽しみながら、基本文法の定着を図る。

○学習計画

月		月	
4	Lesson1 一般動詞	10	Lesson7 受け身, 動名詞
5	Lesson2 一般動詞の現在形	11	Lesson8 現在完了形
6	Lesson3 Be 動詞	12	Speaking 短い文で話す
7	Lesson4 助動詞, 進行形	1	Speaking 質問に3文以上で答える
8	Lesson5 Be 動詞・一般動詞の現在形	2	Speaking
9	Lesson6 不定詞	3	インタビューしたことを発表する
備考 JOYFUL English Communication Basic を使用。			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト・小テスト)

科目名	コース	学年	単位数
英語会話	T	1	2

○内容・授業の進め方

自分のことや身の回りのことを、まとまった量の英語で伝えることを目標に、各レッスンのテーマに合わせて「話す」「書く」の表現活動に力を入れて進める。

○学習計画

月		月	
4	Lesson 1 興味のあることについて話す Lesson 2 余暇について話す	10	日記 3 Lesson 9 乗り物での行き方をたずねる
5	Lesson 3 体調について話す 日記 1	11	Lesson10 ほしいものを買う Lesson11 食事を注文する
6	Lesson 4 学校について話す Lesson 5 天気について話す	12	日記 4 Lesson12 誘う, 誘いに応じる
7	Lesson 6 自分の好みについて話す	1	Lesson13 理由を述べる
8	日記 2		Writing 日記を書く
9	Lesson 7 都合をたずねる Lesson 8 道をたずねる	2	Writing レポートを書く
		3	
備考 SELECT English Conversation 使用。			

○評価

- ・意欲的に学習に取り組んでいるか。(発表、態度)
- ・提出物が出されているか。(ノート、プリント)
- ・授業での学習が理解できているか。(定期テスト・小テスト)

科目名	コース	学年	単位数
社会と情報	T	1	2

○内容・授業の進め方

- ・「情報」が持つ力と役割について学び、効果的な活用方法を理解する。
- ・実習・実践を通して、情報を適切に収集・処理・発信する力を高めるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度とその技術を身につける。

○学習計画

月		月	
4	第1章 情報社会 1 情報と社会 2 社会の変化と個人の責任 3 情報社会の問題 6 メディアの選択 7 個人情報とその保護	10	6 知的財産権の概要と産業財産権 7 著作権 8 著作物の利用 第4章 デジタル化 1 デジタル情報の特徴 2 静止画像の扱い 4 音声のデジタル化 5 色のデジタル化 6 画像のデジタル化 7 圧縮のしくみ
5	第2章 コミュニケーション 2 メールの利用 3 ネットワーク 5 インターネットの仕組み 6 Web ページの閲覧とメールのしくみ 7 インターネットのサービス 9 クラウドコンピューティング	11	第5章 問題解決
6	第3章 情報安全	12	1 問題を解決するには
7	1 個人による安全対策	1	6 表とグラフの活用
8	3 安全のための情報技術	2	7 分析の実際
9	5 法規による安全対策	3	9 プレゼンテーションの方法 10 Web ページによる情報発信
備考		◎P検3級	
・パソコン検定(P検)に向けた試験対策を行い、全員が受験する			

○評価

- ・定期試験 (50%) + 実技試験 (30%) + 授業態度・提出物 (20%) とする
定期試験 (50%) → 得点より評価
・・・思考・判断 (10%) + 知識・理解 (40%)
実技試験 (30%) → 制作物の完成度・創意工夫より評価
・・・関心・意欲・態度 (10%) + 技能・表現 (10%) + 思考・判断 (10%)
授業態度・提出物 (20%) → 発言・提出物・出欠状況・その他より評価
・・・関心・意欲・態度 (10%) + 技能・表現 (10%)
- ・パソコン検定(P検)の受験結果を評価に含める